

Step by Step ～一歩一歩～①

エアハンマーで給湯器の分解作業にガンガン取り組む姿は、まぎれもなく働く青年。現在23歳、伊藤建さん。

働き始めた頃は何を尋ねても首を小刻みに動かす意思表示ばかりでした。出来栄えのわかりやすい作業からスタートしましたが、よそ見が多く抜けが減らない。大雑把で体を使う作業ならと、2年目は企業内作業班でびんやペットボトルを選別しリサイクルする作業に挑戦しました。彼の眼は取り残さないように流れてくるペットボトルに気づけます。安全第一で大きな声が飛び交う中、小さな声を補うかのように手を大きく上げ、体全体で意思表示するようになりました。繁忙期には、やつてもやつても減らないペットボトル等の山に思わず母に愚痴がこぼ

伊藤 建さん

就労継続支援事業B型



れ、山の向こうの景色が見えれば笑顔がこぼれました。4年目を迎えて、分解班へ。簡単な部品分解からスタートし、今では大きな給湯器の本体も様々な工具を使い分け分解しています。必要な返事・報告の声がタイムリーに聞こえるようになってきました。

お給料は散髪等ぐらいでほとんど使わなかった建さんでしたが、近くのスーパーに一人で弁当を買に行ったり、家族分のドーナツを買って帰るなど、社会性も広がっています。家族が建さんの「できた」を喜び、そのことを言葉少な本人が「うれしい」とはつきりと言った姿が印象的でした。これからは成長を続ける建さんと共に働くことを通して、たくさん「できる」を増やしていきたいです。(就業支援部 明石智美)

大塩一俊さん

生活介護



大塩一俊さん、生活支援センター2階作業室にて、軽作業に従事しています。作業の一環として館内の清掃作業を始めることになり、人員を探していたところ、声をかけた時から「やります！」と意欲的な返事がありました。彼の役割は、館内に複数箇所ある洗面所清掃です。最初からとても丁寧な仕事ぶりです。蛇口の裏や少し細かい所なども伝えることで次からはできていました。最初の頃、掃除セットのカゴは一つで濡れた雑巾と一緒に濡れてしまいましたが、最後に鏡を拭く頃には鏡専用の乾いた雑巾も濡れてしまっていました。濡れた雑巾で洗面所前の鏡を拭くと、鏡には水滴の跡が残ることが目に見えて分かりました。乾いた

雑巾で拭く方が綺麗になること、そのためにはカゴの中に乾いた雑巾を入れる用のカゴをもう一つ用意することで、問題が解決しました。どの仕事も真剣に誇りをもって取り組まれています。特に洗面所清掃は周りの方に直接感謝されることがあるので嬉しいと話していました。

一日の作業を終えると、使った机を拭く、ほうきで掃く。丁寧にしています。最後に作業室を出るときには、職員の前へ「明日もお願います」とハキハキとした声であいさつがあります。「今日も仕事頑張ったぞ」とやり切った表情を見て、こちらも嬉しく思い、共に頑張ろうという気持ちになります。(生活支援部 柴田徳好)

生活支援センター 秋祭り



11月5日(金)生活支援センター秋祭りを実施しました。コロナウィルスの影響で一昨年に引き続き、利用者皆さんがとも楽しみにしている日帰り旅行が中止となってしまう。その代わりにの行事として感染症対策を万全に行い、施設内で皆さんが楽しめる行事を考え、今年度はお祭りという形で開催することとなりました。事前に告知の張り紙をするのと、皆さん当日まで、まだかまだかと、とてもお祭りを楽しみにさ

れていました。当日は天候にも恵まれ、中庭に綿菓子、輪投げ、ヨーヨー釣りの屋台を用意し、思い思いに楽しんでいただき、昼食は厨房職員お手製のたこ焼き、フランクフルト、塩焼きそばなどの屋台メニューに皆さん舌鼓を打ちました。最後にはデザートも登場し、満足していただけたのではないかと思います。開始から終了まで、終始皆さんに笑顔で楽しんでもらうことができ、本当にお祭りを開催してよかったなど、職員一

同感することができました。皆さんには、このコロナウィルスの流行で、窮屈な思いをさせてしまうことが多い日が続いていますが、こういった行事で少しでも楽しく、笑顔で過ごしてもらう時間ができるように、今後もいろいろなことを考えていきたいと思っています。新しい一年がどんな一年になるか想像することは難しいですが、その時々々の状況に合わせて、さらに笑顔になれる行事が実施できるように頑張っていきたいと思

います。

(生活支援部 立山晃浩)